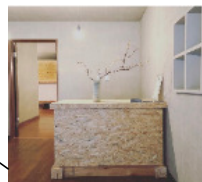
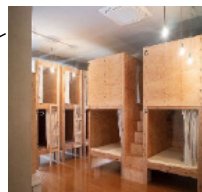
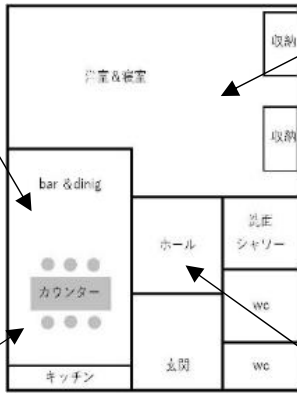


曽爾村

移住体験施設「SONI GATE 山粕宿」



1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 「SONI GATE 山粕宿」から発信することで、村の歴史や自然など、地域のことを幅広く知ってもらおう。
- ② 安心して宿泊してもらえる体制づくりを強化。
- ③ 地域住民が施設の清掃作業などを行い、雇用の場として設けている。

2 取組の概要

- 山粕地区の住民と移住者が連携し、ほとんど使用されていない集会所をリノベーション。
- 施設が曽爾村の入り口にあることから「SONI GATE 山粕宿」と名付け、令和2年4月にオープン。
- 県の移住促進施設整備事業補助金を活用し、「山粕を賑やかにする会」が運営主体。
- 主に地域住民との交流の場として村の情報などを共有できる環境をつくり、移住定住の促進に繋がったり、Wi-Fiやプロジェクターも完備。リモートワークやテレワークなどにも利用できる。
- 人とのつながりを大切に、老若男女問わず大自然の中でゆっくりくつろいで頂ける施設。

3 取組の効果 または 苦労した点や今後の課題

- コロナ禍の中ではあるが、1泊1組限定で家族や友達同士など多くの方が利用。（7月から12月までの利用者数 約280名）
- コロナ対策のため運営形態が変動し、予約のある日のみの勤務となるので、シフト管理に苦労。（現在従業員4人雇用）
- 「SONI GATE 山粕宿」を利用頂くことで、「sonisummit（ソニサミット）」と連携し、移住や創業に繋がっていきたい。
- アフターコロナに向けて、施設の存在を根付かせるためにも「SONI GATE」を発信し続ける。

詳しくは sonigateyamagasuyado@gmail.com

曽爾村

食を起点とした仕事づくり・交流の拠点「そののわの台所 katte」



1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 雇用の場が少ないことが本村の人口減少が続いている一因。
- ② 一方で、農産物など地域素材が豊富にあり、それらを生かした食関連の六次産業による起業・副業は伸びしろがある。



- ・そこで加工品開発にチャレンジできる場を村が提案。
- ・農業者や移住者の副業が生まれる場を創出することで、都市住民の移住やUターンを促すことを可能にする。

2 取組の概要

- 約30年前にできた旧農産加工場が十分に活用できていない中、基幹産業であるトマト・ほうれん草農家、移住者から地域素材を使った商品を開発・製造したいというニーズがあり、これを可能にするため、製造許可付きシェアキッチン「そののわの台所katte」としてリニューアル。
- 農業者・移住者の商品開発、郷土料理や加工品づくりワークショップ開催などを支援。
- 毎週水曜に「そののわマルシェ」を開催し、村内農産物やkatte開発商品も販売。村民同士の交流の場として機能。
- 今後、高齢者向けの配食サービス等、新たな地域ビジネスにも挑戦。

3 取組の効果 または 苦労した点や今後の課題

【取り組みの効果】

- ドライトマトなど農業者による新たな加工品が誕生したり、開発する機運が生まれた。
- 「そののわマルシェ」の開催により、地域住民と地元農家の接点生まれ、地域の農産物を地域内で消費する輪が広がった。

【今後の課題】

- 農家からの「商品開発してほしい」というニーズに応えられるOEM（受注開発製造）体制の構築。素材の出し手と使い手のマッチング・コーディネート。

詳しくは 曽爾村企画課 TEL0745-94-2116